

Chat GPT の実証実験 報告書

令和5年（2023年）9月
熊本市

目次

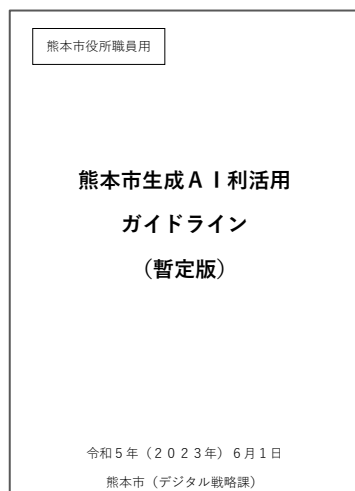
1	実証実験の目的	1
2	実証実験の内容	2
3	リスクとその対策の検討.....	5
4	有用性の検証	7
5	今後の方向性.....	10
<資料>		13
①	利活用検証チーム報告書（個票）	14
②	利用者アンケート調査結果.....	37

1 実証実験の目的

- 令和4年（2022年）11月のChat GPTの公開を機に、生成AIが世界的に急速に普及している。生成AIのような革新的なデジタル技術の利活用は、業務効率化や市民サービスの向上に寄与することが期待される。
- 一方、情報漏えい、誤った情報・偽情報の拡散、著作権の侵害、思考力や創造性の低下などの懸念やリスクも指摘され、国内外で開発・利用のルールに関する議論が進められている。
- 本市では、生成AIの業務導入に向け、リスクと有用性の観点から検証するため、令和5年（2023年）6月から同年8月まで「Chat GPTの実証実験」を実施。実施にあたっては、入力した情報がAIの学習に利用されない環境を整備し、個人情報を入力しないなど、職員にルールを徹底した。

[実証実験の概要]

検証対象	文章生成AI（GPT-3.5）	
検証期間	令和5年（2023年）6月1日～同年8月31日	
体制 （100名）	運用方針	デジタル戦略課
	検討チーム	情報政策課
	利活用 検証チーム	改革プロジェクト推進課、広報課、政策企画課、データ戦略課、国際課、財政課
	業務利用を希望する職員	
事前準備	ガイドライン（暫定版）の策定 事前研修会の開催	
利用サービス	Graffer AI Studio	



ガイドライン（暫定版）

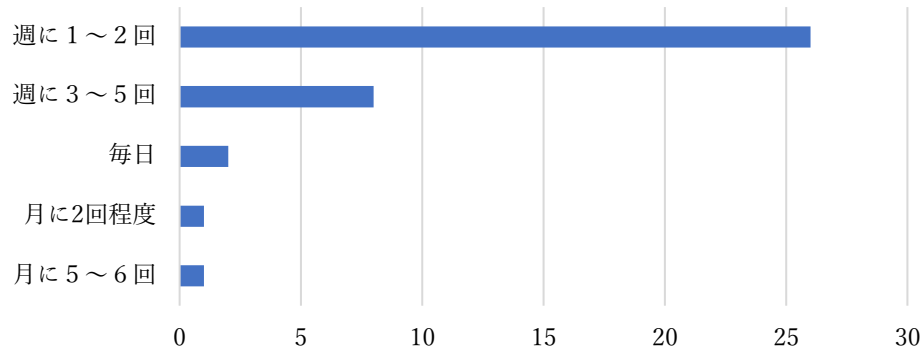


事前研修会（R5.6.6）

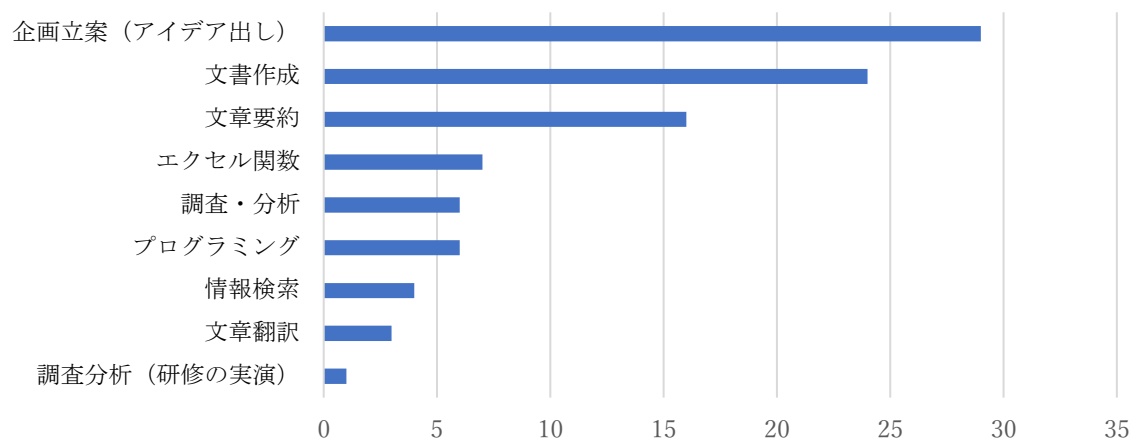
2 実証実験の内容

- ・実証実験期間中、1月あたり全体で約3,600回利用した。
- ・利用頻度は、週1～2回の利用が最も多い。
- ・利用用途は、①企画立案（アイデア出し）、②文書作成、③文章要約、④エクセル関数、⑤調査・分析 などとなっている。

<利用頻度> 出所：利用者アンケート調査



<主な利用用途> 出所：利用者アンケート調査



<具体的な活用事例>

利用用途	具体的な活用事例
① 企画立案	・震災実働訓練のアイデア出し ・企業誘致パンフレットの項目、構成に関するアイデア出し ・Kumamoto Education Week の企画案作成
② 文書作成	・市長挨拶文の作成 ・まちづくりに関する企業版ふるさと納税の説明資料作成 ・訪日外国人観光客向けのコラムやSNS 記事の作成
③ 文書要約	・法令等の要約 ・省庁からの通知の要約 ・誤字脱字チェック

＜活用事例＞

① 広報課__市政だよりの校正

課題：

各部門から提出される市政だよりの原稿の分量は提出まで不明。原稿が全て揃った時点で紙面のスペースを割り当てることが可能となる。提出された原稿に対するスペースが不足することが多く、広報課で文字数を削減する必要がある。また、情報量が多すぎて、伝わりにくい場合がある。

命令文：

#命令書：

あなたは市役所の広報担当職員です。以下の条件のもと最高の要約を出力してください。

#制約条件

・文字数は 150 文字以内 ・ですます調で ・市民向けに ・正しい文法で

#構成前文章

熊本市の充実した救急医療体制は、たくさんの医師、看護師、医療スタッフの協力により成り立っています。

ただ、休日や夜間の診療時間帯は限られたスタッフで運営されているため、“夜の方が空いているから”などの急を要しない「コンビニ受診」が増えると、緊急性の高い方の治療が遅れたり、救急医療を担うスタッフの負担を重くし、救急医療体制を維持できなくなることにもつながります。

将来の救急医療を守るためにも、症状が軽く緊急を要しない人は、可能な限り昼間の診療時間内の受診を心がけましょう。

出力文：

熊本市の救急医療体制は多くの医師や看護師、医療スタッフの協力に支えられています。

しかし、休日や夜間はスタッフが限られており、緊急でない「コンビニ受診」が増えると、重要な治療が遅れる可能性やスタッフの負担増加につながります。将来の救急医療を守るために、症状が軽い場合は昼間に受診することをお願いします。

評価：

- ・ 形容詞や動詞を簡潔に言い換え
- ・ 作業時間が 50%～80%削減
- ・ 校正業務の平準化に寄与

② 改革プロジェクト推進課__A I 議事録の校正

課題：

音声認識 A I によって文字起こしされた会議録には、記録する必要のない言葉や、誤変換などが発生し、校正作業に時間を要している。

命令文：

下記の文章は、音声データから A I で文字起こしをしたものです。以下の指示を踏まえて、文章を校正してください。

- ・「ああ」や「ええと」など話す時に入るクッション言葉を削除する
- ・誤字脱字を整える

###

まあ、今日の新聞あたりに見てもですね。マイナンバー揺らぐ信頼とかトラブル続出とか人的なシステムミスとかですね。いろんな課題がまた出ているようですが、熊本市としてもですね。これやっぱあのマイナンバーカード取得を進めて政令市一位とかなってますけれども、このやっぱ利活用をするためには、市民からのですね、信頼を得なければですね、できないのかなと言うふうに思います。で失敗してまたやり直すという発想じゃなくて、ですね。

出力文：

今日の新聞でもマイナンバーに関する信頼問題やトラブルが続出していることが報じられています。熊本市としてもマイナンバーカードの進め方について検討していますが、市民の信頼を得るためには、失敗してもやり直すという発想ではなく、適切な対策を講じる必要があります。

評価：

- ・ 「まあ」「あの」といったクッション言葉の削除
- ・ 誤字脱字の校正
- ・ 作業時間が 40 % 程度削減

3 リスクとその対策の検討

(1) リスク

- ・ 情報漏えいについては、実証実験では情報セキュリティ環境が整備されたサービスを利用したことに加え、ガイドライン（暫定版）と事前研修により運用ルールを利用者に徹底したことにより発生しなかった。
- ・ Chat GPT は、2021 年 9 月までのデータしか学習していないことなどから、誤った情報が一部に確認された。

[誤った情報の例]

命令文：

熊本城の復旧状況と営業時間を教えてください

出力文：

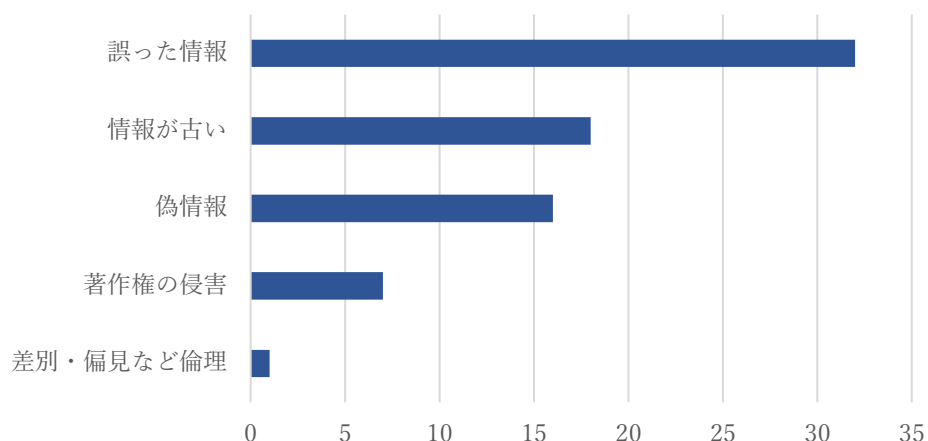
熊本城は、2016 年に発生した熊本地震で大きな被害を受けましたが、現在は復旧作業が進められています。2020 年 4 月には、天守閣の復旧が完了し、一部が一般公開されました。

営業時間は通常、午前 8 時 30 分から午後 6 時までとなっていますが、季節やイベントによって変動する場合があります。詳しい営業時間については、公式ウェブサイトや観光案内所などで確認することをおすすめします。

※天守閣の復旧は 2021 年 3 月に完了。通常の開園時間は午前 9 時から午後 5 時

[利用者所感] 出所：利用者アンケート調査

Q. 生成物に対するリスクや問題点は何ですか。



(2) 対策

- 生成A Iの利用にあたっては、意図しない情報漏えいを未然に防ぐため、学習されない機能（オプトアウト機能）が初期設定されていない無償版等ではなく、セキュリティ環境が整備されたサービスを利用する必要がある。
- 職員が生成A Iの特性を十分理解し、様々なリスクに適切に対応できるようにするため、「熊本市生成A I利活用ガイドライン」に基づく事前研修の受講を必須とする。
- 特に、生成A Iは、誤った情報をあたかも真実かのように生成することがあるため、そのまま鵜呑みにせず、事実確認（ファクトチェック）を徹底するなど、職員の情報リテラシーの向上を図ることが重要である。

[利用者意見]

出所：利用者アンケート調査から一部抜粋

- ・情報が古いため、最新の法令情報やニュースを活用できないことが欠点と感じる。
- ・回答に虚偽の情報が多く、使う側のリテラシーが高くないと誤った事務につながる恐れがある
- ・アイデア出しなどで気軽に使用できるのは良い。しかし、すべての情報を鵜呑みにせず、慎重に使用するという意識を持つことが大事だと思った。
- ・誤った情報の確認が思ったより時間がかかる。

4 有用性の検証

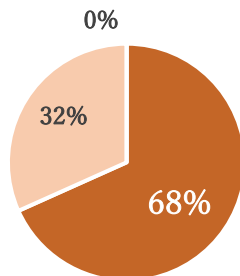
(1) 定性的評価

- ・ 利用者アンケート調査の結果、68%が「作業効率が向上した」と回答。
- ・ 54%が「作業にかかる時間が短縮」、66%が「作業の質が向上した」、68%が「作業の負担が軽減された」と回答。
- ・ 業務の平準化や心理的負担の軽減に繋がったとの声もあった。

[利用者所感] 出所：利用者アンケート調査

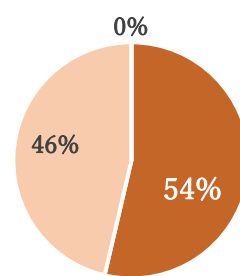
Q. 作業効率が向上しましたか

■ 向上した ■ どちらともいえない ■ 低下した



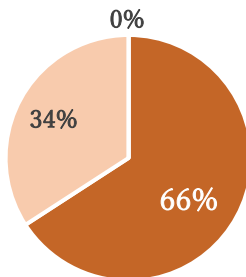
Q. 作業時間は短縮されましたか

■ 短縮した ■ どちらともいえない ■ 伸びた



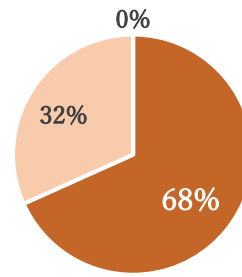
Q. 作業の質は向上しましたか。

■ 向上した ■ どちらともいえない ■ 低下した



Q. 作業の負担が軽減されましたか

■ 軽減した ■ どちらともいえない ■ 増大した



[利用者意見] 出所：利用者アンケート調査から一部抜粋

- ・ 生成AIを使うことで、新たな視点やアイデアが得られる。その素案に、経験を踏まえた付加価値をつけることで、業務の精度や質を上げることができる。また、政策立案や文書作成など、頭を使う仕事の負担感、ストレスが緩和され、働き方改革にもつながる。
- ・ 生成AIに頼り切るのではなく、自分で情報を取捨選択しながら活用することは必要だが、これを使うことで業務効率化や業務精度の向上に繋がり、非常に助かった。また、Excel 関数等の日常業務で活用できるものは、広く職員に情報共有し活用のハードルを下げることで、職員全体の作業時間短縮につながると思う。

(2) 定量的評価

- ・ 利活用検証チーム報告書や利用者アンケート調査の結果、業務効率化の効果は、利用用途に加え、利用者のスキルにより幅がある。
- ・ 一方、データ収集分析や「やさしい日本語」への翻訳等は、ファクトチェックや修正に時間を要し、財政分析は回答が得られないなど、効率化につながらないケースが確認された。(GPT-4を活用すれば情報の正確性が向上する可能性がある)
- ・ 本市職員の利用用途は、文書作成事務の他、企画立案等、多岐に渡るため、生成AIの特性を理解したうえで、有効に利活用することで、更なる業務効率化が期待できる。

[業務効率化の例]

① 利活用検証チーム報告書

☆ 審議会の議事録作成	2時間/件
☆ テレワーク推進に係るアイデア出し	30分/件
☆ 男性の育休取得促進に係る動画作成	3時間/件
☆ 市政だよりの文書校正	5分/件(年間100時間)
☆ プレスリリースの作成	5分/件(年間150時間)
☆ 政策立案(市民参画手法の検討)	1時間/件

② 利用者アンケート調査

利用用途	利用前		利用後	効果
挨拶文の作成	2時間	⇒	1時間	1時間
SNSの文書作成	1時間	⇒	30分	30分
施設へのメール通知	40分	⇒	20分	20分
職員研修の企画	3時間	⇒	数分	3時間
多言語翻訳	1週間+α	⇒	1時間	1週間

[全職員が文書作成に活用した場合の業務効率化の効果(仮説)]

文書作成事務について、正規職員約7,400名のうち54%が、1月あたり1人1時間短縮すると仮定した場合、年間約48,000時間の効率化が見込まれる。

年間 約48,000時間

(7,400人×54%×1時間※×12月≒48,000時間)

※1時間の根拠は、文書作成1件につき10分(作成:5分、校正:5分)業務が短縮し、当該業務が月6件(週1~2回)発生すると仮定

【利用者意見】 出所：利用者アンケート調査から一部抜粋

- ・ G P T 4 が使用可能になれば、精度等があがり更に効率化ができるのではないかな。
- ・ 生成 A I に各種計画、マニュアル、データなどを学習させ、職員の負担軽減や業務の精度向上等を目的として活用（窓口、許認可や給付業務等の要件審査など）するほうが効果が高いのではないかな。
- ・ 意識して生成 A I を使っていかなければ、これまでと同じ業務の進め方をしている。本格的な導入に際しては、まずは意識して使わせる仕組みや意識醸成が必要ではないかな。

5 今後の方向性

(1) 総括

- ・ 実証実験の結果、生成A Iは、業務の効率化、質の向上に効果が認められ、利用者のうち9割が継続して利用したいと回答している。
- ・ 人口減少が進展する中、生産性の向上を図り持続可能な市民サービスを提供するためには、生成A Iをツールとして利活用していくことは有効である。
- ・ 利活用にあたっては、個人情報・機密情報の漏えい、誤った情報・偽情報の拡散、著作権侵害等のリスクへ適切に対応するため、情報セキュリティ環境の整備に加え、利活用ガイドラインに基づくルール徹底が必要である。
- ・ 生成A Iを適切かつ効果的に使いこなすためには、職員の情報リテラシーに加え、市民との対話力や思考力、課題設定力等の職員の能力向上が重要である。

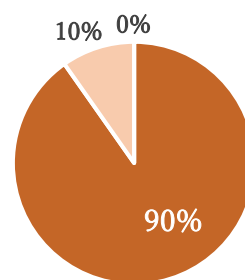
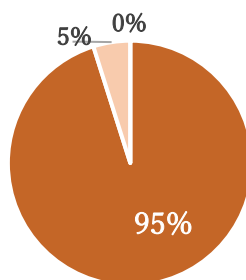


【利用者所感】 出所：利用者アンケート調査

Q. 生成A Iは本市の業務に利活用
できると思いますか。

Q. 生成A Iを継続して使いたいと
思いますか。

■ 利活用できる ■ どちらともいえない ■ 利活用できない ■ 使いたい ■ どちらともいえない ■ 使う必要はない



(2) 今後の方向性

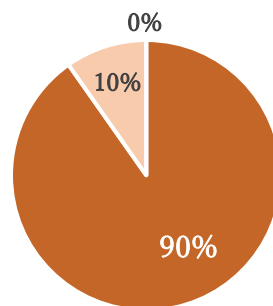
- ・ 本市では、生成A Iを業務に導入するため、令和5年(2023年)10月から情報セキュリティ環境が確保され、最新モデル(GPT-4)が搭載されたBing Chat Enterpriseを利用できる環境を整備する。
- ・ Bing Chat Enterpriseを業務効率化に最大限活用するとともに、活用を通し、生成A Iを「使いこなす力」、情報リテラシーを育成する。

- 生成A I のモデル及びサービスは、テクノロジーの進展、規制などの動向を見極めながら柔軟に見直しを行っていく。
- 生成の精度を高め、幅広い業務に活用するための、データの学習などの生成A I のファインチューニングについては、今後検討していく。

[利用者所感] 出所：利用者アンケート調査

Q. 幅広い業務に活用するため生成A I にデータ等を学習させるべきだと思いますか

■ 学習させるべき ■ どちらとも言えない ■ 学習させなくていい



[Bing Chat Enterprise]

- 日本マイクロソフト社のクラウドサービス。
- 会話の内容は組織の外部に漏れることはなく、Microsoft もチャットデータに直接アクセスすることはできない。
- GPT-4 のモデルを搭載し、Web 上の情報を検索のうえ出力するため、A I に学習されていないデータについても生成
- 本市は、Microsoft 365 (E3) ライセンスを所有しているため、追加費用負担なしで利用可能



Bing Chat Enterprise の生成例

命令文：

熊本城の復旧状況と営業時間を教えてください

出力文：

熊本城の復旧状況と営業時間について、以下の情報をお伝えします。

- ・熊本城は平成 28 年の熊本地震により、石垣の崩落や建築物の倒壊など甚大な被害を受けました。現在、復旧工事が続いています。令和元年（2019 年）から特別公開が始まり、被害状況や復旧工事の様子を見学できるようになりました。

- ・熊本城の開園時間は 9:00～17:00（最終入園 16:30）です。休園日は年末（12 月 29 日～12 月 31 日）ですが、イベント等により開園する場合があります。

- ・熊本城の入園料は高校生以上 800 円、小・中学生 300 円、未就学児無料です。有料入園 30 名以上の団体料金は高校生以上 640 円、小・中学生 240 円です。また、熊本城ミュージアムわくわく座や熊本博物館とのお得な共通入園券もあります。

- ・熊本城の観覧マップは[こちら](#)からご覧いただけます。天守閣や本丸御殿などの見どころや諸注意事項も記載されています。

- ・熊本城の復旧・復元を目指して「復興城主」制度が設けられています。復興城主になると、特典として入園券やオリジナルグッズなどがもらえます。

以上が熊本城の復旧状況と営業時間に関する情報です。熊本城は日本の歴史と文化を感じられる素晴らしい名城です。ぜひ一度ご覧ください。😊

評価：

- ・ 検索により最新の正確な情報を出力
- ・ 参照元の URL も各文章にて表示
- ・ 入園料やマップ、お薦めなど + α も出力

<資料>

① 利活用検証チーム報告書（個票）

② 利用者アンケート調査結果

① 利活用検証チーム報告書（個票）

改革プロジェクト推進課① 審議会の議事録作成

共通	Q	業務名
	A	審議会の議事録作成
	Q	業務及び活用内容
	A	審議会の議事録作成にあたっては、AI 議事録作成サービスで文字起こしした文章をベースに職員が校正している。この作業の間にチャット GPT を活用し校正を行った。
	Q	業務実施者
質の向上	A	所属課の業務を担当する職員
	Q	作業の精度は向上しましたか
	A	どちらともいえない
	Q	具体的にはどういった点において、どのように向上、低下しましたか
業務効率化	A	担当する職員によって異なる。
	Q	作業の時間は短縮しましたか
	A	短縮した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように短縮・延長しましたか
	A	【校正】 ・口語→文語への変換 ・「ええ」や「あの」といったクッション言葉の削除 ・「二重三重」を「23、10」と読み替えるなど不適切な変換の修正 【語尾の統一】 ・「ですます調」で生成された文章を「である調」に変換 【要約】 ・ある程度の精度で要約可。 以上に係る修正や削除といった手間が削減された。
	Q	1 件につき、どの程度短縮しましたか ※「短縮した」の選択者のみ
	A	2 時間
	Q	その業務は年間何件発生しますか。 ※「短縮した」の選択者のみ
	A	数回
	業務平準化	Q
A		どちらともいえない
Q		具体的にはどういった点において、どのように寄与しましたか？また、寄与しませんでしたか？
負担軽減	A	
	Q	作業の負担は軽減しましたか ※心理的な負担も含む
	A	軽減した
課題と対策	Q	具体的にはどういった点において、どのように軽減・増大しましたか？
	A	効率化同様、不要な言葉の削除や修正の手間が軽減された。
	Q	どのような状態になれば、（より）効果的な利用ができるようになりますか。当てはまるものにチェックをいれてください。
		機密性 2 以上を取扱う業務についても利用できるようにする
		特定の情報を学習させる
		虚偽の情報の出力頻度が下がる
	○	生成物の精度が上がる（特定情報の未学習や虚偽情報出力を起因とする精度は除く）
	○	利用者が文章生成 A I のツールの利用に慣れる

命令文：

下記の文章は、音声データから AI で文字起こしをしたものです。以下の指示を踏まえて、文章を校正してください。

- ・「ああ」や「ええと」など話す時に入るクッション言葉を削除する
- ・誤字脱字を整える

###

あすみません、〇〇ですええと前回の会議でもちょっと質問したところですが、まあマイナンバーカードの取得。まあ、非常にあの前回お尋ねした時からすると伸びてます。しまあ、今後はですね、これがすすんでいくんだろうなと言うことは充分考えております。まあしかしここ二三日の新聞とみましてですね。特に私になったのはええと 28 日土曜日の新聞で「やるかやらないか悩んだ時は、やらないで後悔するよりもやってみて、失敗したら反省する方が良い」と言うようなこの大臣の談話が載ってましたけれども、やはりこの。

マイナンバーカードまあ、失敗したらやり直すとしたらいいっていう発想はですね。ちょっとあの違うんじゃないかなと、やはり。

まあ、今日の新聞あたりに見てもですね。マイナンバー揺らぐ信頼とかトラブル続出とか人的なシステムミスとかですね。いろんな課題がまた出てるようなんですけれども、熊本市としてもですね。これやっぱりあのマイナンバーカード取得を進めて政令市一位とかなってますけれども、このやっぱり利活用をするためには、市民からのですね、信頼を得なければですね、できないのかなと言うふうに思います。で失敗してまたやり直すという発想じゃなくて、ですね。まあ、職員の皆さんですねええ、いくつかのチェックをですね。ええ 23、10 のチェックをしながらミスがないようにするとかですね。やはりそういう手当をやってほしいなあと言うふうにええ思っております。で、保険証を秋ぐらいには一体化とかなってますが、それについても人の情報データがですね。まあやっぱりかなりの問題が出ますし、この辺、熊本市としてもですね、この保険証の

取り組み、秋にもされるのか、政府が言ってるようなことをですね。どこまでの考えでいらっしゃるのかとか、その辺ちょっとお尋ねしたいなと言うふうに思ったところです。以上です。

出力文：

すみません、〇〇です。前回の会議でも質問したところですが、マイナンバーカードの取得についてですね。前回お尋ねした時から非常に進展しています。今後はこれが進んでいくと考えています。ただ、ここ 2、3 日の新聞を見ると、特に 28 日土曜日の記事で、申請面でのトラブルが報道されています。

やるかやらないか悩んだ時は、やらないで後悔するよりもやってみて、失敗したら反省する方が良いという大臣の談話が載っていましたが、やはりこれは違うのではないかと思います。

今日の新聞でもマイナンバーに関する信頼問題やトラブルが続出していることが報じられています。熊本市としてもマイナンバーカードの進め方について検討していますが、市民の信頼を得るためには、失敗してもやり直すという発想ではなく、適切な対策を講じる必要があります。

特に職員の皆さんには、ミスがないようにするためのチェックを徹底してほしいと思います。また、保健所の情報の一体化についても、他の人に情報が漏れるなどの問題が出る可能性がありますので、熊本市としても取り組み方について慎重に考える必要があります。

以上です。

改革プロジェクト推進課② テレワークの推進に係るアイデア出し

共通	Q	業務名
	A	テレワークの推進に係るアイデア出し
	Q	業務及び活用内容
	A	テレワークの推進を図るため、テレワークデイズ 2023 を実施。 各課への依頼文の作成やテレワーク期間終了後に行うアンケート調査の項目の検討に利用した。
	Q	業務実施者
	A	所属課の業務を担当する職員
質の向上	Q	作業の精度は向上しましたか
	A	向上した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように向上、低下しましたか
	A	文章の校正や添削ができる点。アイデア出しがいつでも依頼でき、複数の回答が得られる点。
業務効率化	Q	作業の時間は短縮しましたか
	A	短縮した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように短縮・延長しましたか
	A	アンケートの項目検討について、瞬時に多くの項目出しができ、時間短縮につながった。
	Q	1 件につき、どの程度短縮しましたか ※「短縮した」の選択者のみ
	A	30 分程度
	Q	その業務は年間何件発生しますか。 ※「短縮した」の選択者のみ
	A	アンケートの項目検討は年間数件は発生
業務平準化	Q	業務平準化には寄与しましたか
	A	どちらともいえない
	Q	具体的にはどういった点において、どのように寄与しましたか？また、寄与しませんでしたか？
	A	
負担軽減	Q	作業の負担は軽減しましたか ※心理的な負担も含む
	A	軽減した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように軽減・増大しましたか？
	A	チャット GPT を利用することで、作業への取り掛かりのハードルが下がり、心理的な負担も軽減するように感じた。
課題と対策	Q	どのような状態になれば、(より)効果的な利用ができるようになりますか。当てはまるものにチェックをいれてください。
		機密性 2 以上を取扱う業務についても利用できるようにする
		特定の情報を学習させる
		虚偽の情報の出力頻度が下がる
		生成物の精度が上がる(特定情報の未学習や虚偽情報出力を起因とする精度は除く)
	○	利用者が文章生成 A I のツールの利用に慣れる

命令文：

あなたは自治体の職員です。職員にテレワークの利用を推進する立場です。
テレワーク実施月間を実施しました。
テレワークの成果を評価するため、職員アンケートを実施します。
アンケート項目を箇条書きをお願いします。

出力文：

テレワークの成果を評価するための職員アンケート項目の例を以下に示します。

1. テレワークによって通勤時間の削減ができましたか？
2. テレワークによって仕事とプライベートの両立がしやすくなりましたか？
3. テレワークによって集中力や生産性が向上しましたか？
4. テレワークによってチームとのコミュニケーションが円滑に行えましたか？
5. テレワーク環境（インターネット接続やパソコンなど）に問題はありましたか？
6. テレワークによってストレスや負担が軽減されましたか？
7. テレワークを継続する意欲はありますか？
8. テレワークによって業務の達成感や充実感が得られましたか？
9. テレワークによって業務の品質が向上しましたか？
10. テレワークによって業務の効率化が図れましたか？

これらの項目は、テレワークの効果や課題を把握するための指標となります。アンケートの回答結果を分析し、テレワークの成果や課題を把握し、改善策を検討する際の参考にしてください。また、アンケート項目は必要に応じて追加や変更を行うこともできます。

改革プロジェクト推進課③ 育休取得促進に係る動画作成のアイデア出し

共通	Q	業務名
	A	男性の育休取得促進に係る動画作成のアイデア出し
	Q	業務及び活用内容
	A	男性職員の育休取得促進を目的とした、職員向けの啓発動画の作成業務として、動画の構成及び映像案を提示してもらった。
	Q	業務実施者
	A	所属課の業務を担当する職員
質の向上	Q	作業の精度は向上しましたか
	A	向上した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように向上、低下しましたか
	A	思いつかない視点での提案もあり、選択肢が広がった。
業務効率化	Q	作業の時間は短縮しましたか
	A	短縮した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように短縮・延長しましたか
	A	アイデアを出してくれたことで、作業時間が短縮した。
	Q	1件につき、どの程度短縮しましたか ※「短縮した」の選択者のみ
	A	3時間
業務平準化	Q	その業務は年間何件発生しますか。 ※「短縮した」の選択者のみ
	A	当該動画作成は初めて作成するもの、また一度作ると数年は使う想定のため件数の算出は困難
	Q	業務平準化には寄与しましたか
	A	どちらともいえない
負担軽減	Q	具体的にはどういった点において、どのように寄与しましたか？また、寄与しませんでしたか？
	A	スポット的に発生する業務のため不明
	Q	作業の負担は軽減しましたか ※心理的な負担も含む
	A	軽減した
課題と対策	Q	具体的にはどういった点において、どのように軽減・増大しましたか？
	A	予備知識がないため、類似動画の閲覧やウェブ検索により知識を付ける必要があったが、それらのプロセスを経ずに案を作成でき、作業負担は大きく軽減した
	Q	どのような状態になれば、(より)効果的な利用ができるようになりますか。当てはまるものにチェックをいれてください。
		機密性2以上を取扱う業務についても利用できるようにする
		特定の情報を学習させる
		虚偽の情報の出力頻度が下がる
	○	生成物の精度が上がる(特定情報の未学習や虚偽情報出力を起因とする精度は除く)
		利用者が文章生成AIのツールの利用に慣れる

命令文：

男性職員の育児休暇取得を促進する職員向けの動画を作りたいと思います。以下が動画の概要及び目的です。

●概要

長さ:5分以内

ターゲット:子どもが生まれる男性職員及びその職員の上司

●目的

- ・男性職員の育児休暇取得率を上げたい
- ・男性職員の取得意欲向上と、所属長が取得に対ししっかりと配慮するよう意識を変えたい

以上を元に、動画の構成案を作成してください。

出力文：

動画の構成案：

イントロダクション（約30秒）

男性職員の育児休暇取得についての重要性を強調する。

育児休暇取得のメリットを紹介する。

男性職員の育児休暇取得の現状（約1分）

現在の男性職員の育児休暇取得率の低さを示す統計データを提示する。

男性職員が育児休暇を取得しない理由や課題を紹介する。

育児休暇のメリット（約1分）

育児休暇の取得が、仕事と家庭の両立や家族との絆を深めるために重要であることを伝える。

育児休暇取得のメリットを実際の男性職員の声や事例を交えて紹介する。

取得意欲向上のためのアプローチ（約1分）

取得意欲を向上させるためのポイントを紹介する。

上司や組織が取得に対して配慮することの重要性を強調する。

育児休暇取得に関する制度やサポート体制を紹介する。

上司へのアピール（約1分）

上司に対して育児休暇取得の重要性やメリットを伝えるためのアピールポイントを提案する。

上司が理解し、支援するためのコミュニケーション方法や具体的なアプローチを紹介する。

クロージング（約30秒）

男性職員の育児休暇取得によるポジティブな変化や成功事例を紹介し、励ましのメッセージを送る。

最後に、育児休暇取得を後押しするためのリソースや連絡先を提供する。

以上の構成案を元に、育児休暇取得を促進する職員向けの動画を制作することができます。

広報課① 市政だよりの文章校正

共通	Q	業務名
	A	市政だよりの文章校正
	Q	業務及び活用内容
	A	・市政だよりの原稿が各担当課より提出されるが、提出を受けるまで原稿の分量が不明であるため、原稿が出揃って初めて割り当てる事ができる紙面のスペースが決まる。 ・ほとんどの場合、提出された原稿に対して割り当て可能なスペースが少ない状況になるため、広報課にて文字数を削る必要がある（スペースに関係なくそもそも情報量が多すぎて見づらい場合も多い）。 ・今回、ここで行う文章の校正作業（元の文章を読みやすく、かつ文字数を少なくする作業）での活用を検証した。
	Q	業務実施者
	A	所属課の業務を担当する職員
質の向上	Q	作業の精度は向上しましたか
	A	向上した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように向上、低下しましたか
	A	・校正案として活用可能 ・命令文によっては、ある程度の質も担保される ・担当が校正に悩む部分についても、上手に校正されるケースもあった
業務効率化	Q	作業の時間は短縮しましたか
	A	短縮した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように短縮・延長しましたか
	A	・瞬時に校正案が作成されるため、作業時間が短縮した。 ・担当が手を加えなおす場合も多いが、その時間を含めても作業時間短縮に繋がる。
	Q	1件につき、どの程度短縮しましたか ※「短縮した」の選択者のみ
	A	5分／1件
業務平準化	Q	その業務は年間何件発生しますか。 ※「短縮した」の選択者のみ
	A	1,200件程度
	Q	業務平準化には寄与しましたか
	A	寄与した
業務平準化	Q	具体的にはどういった点において、どのように寄与しましたか？また、寄与しませんでしたか？
	A	・文章の校正力がない職員でも、Chat GPTを使うことで校正案を作成することができるため、業務の平準化に寄与すると思われる。
	Q	作業の負担は軽減しましたか ※心理的な負担も含む
負担軽減	A	軽減した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように軽減・増大しましたか？
	A	・上記のとおり作業時間の短縮や手間が少なくなり負担軽減につながった。
課題と対策	Q	どのような状態になれば、（より）効果的な利用ができるようになりますか。当てはまるものにチェックをいれてください。
	☐	機密性2以上を取扱う業務についても利用できるようにする
	☐	特定の情報を学習させる
	☐	虚偽の情報の出力頻度が下がる
	☐	生成物の精度が上がる（特定情報の未学習や虚偽情報出力を起因とする精度は除く）
	☐	利用者が文章生成AIのツールの利用に慣れる

命令文：

#命令書

あなたは市役所の広報担当職員です。
以下の制約条件をもとに[最高の要約]を出力してください。

#制約条件

- ・文字数は 150 文字以内
- ・ですます調で
- ・市民向けに
- ・正しい文法で

#入力文

熊本市の充実した救急医療体制は、たくさんの医師、看護師、医療スタッフの協力により成り立っています。

ただ、休日や夜間の診療時間帯は限られたスタッフで運営されているため、“夜の方が空いているから”などの急を要しない「コンビニ受診」が増えると、緊急性の高い方の治療が遅れたり、救急医療を担うスタッフの負担を重くし、救急医療体制を維持できなくなることにもつながります。

将来の救急医療を守るためにも、症状が軽く緊急を要しない人は、可能な限り昼間の診療時間内の受診を心がけましょう。

出力文：

熊本市の救急医療体制は多くの医師や看護師、医療スタッフの協力に支えられています。しかし、休日や夜間はスタッフが限られており、緊急でない「コンビニ受診」が増えると、重要な治療が遅れる可能性やスタッフの負担増加につながります。将来の救急医療を守るために、症状が軽い場合は昼間に受診することをお願いします。

広報課② 市長記者会見の読み原稿校正

共通	Q	業務名
	A	市長記者会見の読み原稿校正
	Q	業務及び活用内容
	A	市長記者会見の読み原稿については、所管課が作成のうえ、広報課に提出する。 広報課はその文章を一般的な校正に加え、市長が読み上げやすい文章に校正する必要がある、その校正に Chat GPT が活用できないか検証した。 (※発表前の原稿は入力できないため、検証には過去の読み原稿を活用)
	Q	業務実施者
	A	所属課の業務を担当する職員
質の向上	Q	作業の精度は向上しましたか
	A	どちらともいえない
	Q	具体的にはどういった点において、どのように向上、低下しましたか
	A	
業務効率化	Q	作業の時間は短縮しましたか
	A	延長した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように短縮・延長しましたか
	A	低いクオリティの成果物しかできないため、改めて職員が校正する必要がある、業務時間が延長した。
	Q	1 件につき、どの程度短縮しましたか ※「短縮した」の選択者のみ
	A	
	Q	その業務は年間何件発生しますか。 ※「短縮した」の選択者のみ
業務平準化	A	
	Q	業務平準化には寄与しましたか
	A	寄与しなかった
	Q	具体的にはどういった点において、どのように寄与しましたか？また、寄与しませんでしたか？
負担軽減	A	一般的な職員のレベルに校正力が達していないため、業務平準化には寄与していない
	Q	作業の負担は軽減しましたか ※心理的な負担も含む
	A	増大した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように軽減・増大しましたか？
課題と対策	A	
	Q	どのような状態になれば、(より) 効果的な利用ができるようになりますか。 当てはまるものにチェックをいれてください。
	☐	機密性 2 以上を取扱う業務についても利用できるようにする
	☐	特定の情報を学習させる
	☐	虚偽の情報の出力頻度が下がる
	☐	生成物の精度が上がる (特定情報の未学習や虚偽情報出力を起因とする精度は除く)
	☐	利用者が文章生成 A I のツールの利用に慣れる

命令文：

あなたは熊本市の市長です。
担当課より提出のある以下の市長記者会見の市長読み原稿案を、市長用に校正してください。
校正にあたっては、以下の制約条件を守ってください。

#制約条件

- ・市長（市）がどういう認識・方針で臨むかを明らかにする
- ・方針決定に至った理由・経緯を簡潔かつ明確に説明する
- ・目的や効果を簡潔かつ明確に説明する
- ・細かい部分については説明を省略し概要を説明する
- ・語尾は謙譲語で
- ・適宜市民への呼びかけを入れる

#読み原稿

6月1日から検証チームによる Chat GPT の業務利用に関する実証実験を開始します。

Chat GPT を始めとした生成 A I のような革新的技術は、これから更に加速度的に開発が進み発展していくものと考えています。これらの利活用により業務効率化ひいては市民サービスの向上に寄与することが強く期待されます。本市としてもこうした先進的な技術を積極的に活用し、その恩恵を市民の皆様へ還元すべきと考えています。

一方で個人情報を含む機密情報の漏えいや著作権等の侵害、社会規範または事実と反する文章を生成するなどの可能性があることが指摘されています。

これを踏まえ、実証実験は、入力した情報が学習に利用されないなど情報セキュリティ環境が整備され、管理者による利用者管理や利用ログの追跡ができるサービスにおいて行います。また、限られた職員で実証実験を行うことで利用状況等の管理と利用上のルール遵守を徹底します。

検証チームはリスク検証チーム、利活用検証チームに加え業務利用を希望する職員個人を募り合計 100 名程度とします。

リスク検証チームは情報セキュリティを担当する部署で構成し、利用にあたってのリスクや適切な環境を検証し、それを踏まえた最適な利用ルールの作成を検討します。

利活用検証チームは、各部署の業務について試験的に利用し、その効果を定性的・定量的に検証することで、効果的な用途と利用方法について検討します。

業務利用を希望する職員については業務の幅を限定せず、様々な視点から活用の可能性を研究します。

実証実験の期間は8月末までの3カ月間とし、9月末までに実証実験の結果をまとめた「検証報告書」と、適切な活用方法と利用上のルールをまとめた「利活用ガイドライン」を作成します。

本市では今後も生成 A I を含めた最新の技術の利用について、適切なリスク評価を行ったうえで積極的に活用し、行政サービスの質の向上と業務効率化に努めてまいりたいと考えています。

出力文：

6月1日から Chat GPT の業務利用に関する実証実験を開始します。

Chat GPT を含む生成 A I の技術は、業務効率化や市民サービス向上に大きな期待が寄せられています。

しかし、情報漏えいや著作権侵害、社会規範に反する文章の生成などの懸念もあります。

そのため、実証実験では情報セキュリティ環境を整備し、利用者管理や利用ログの追跡も行います。

実証実験は8月末までの3カ月間で、その結果をまとめた報告書と利用ルールのガイドラインを作成します。

広報課③ プレスリリース（報道投げ込み資料）案の作成・内容の校正

共通	Q	業務名
	A	プレスリリース（報道投げ込み資料）案の作成・内容の校正
	Q	業務及び活用内容
	A	・ 市政情報について、各課が作成した報道資料を広報課で修正し、報道各社に情報提供を行っている。 ・ 各社に提供する報道資料は、担当課が作成のうえ広報課に提出。 ・ 報道資料は記者の目に留まるよう簡潔にわかりやすく記載する必要があるが、内容がわかりづらかったり、必要な事項の記載がないものが散見されている状況。 ・ 広報課では、一般的な校正に加え、記者目線でわかりづらい部分がないかなどを確認し、資料を修正して各社へ情報提供しているところ。 ・ 今回、既存の資料等から Chat GPT を活用して直接プレスリリース案を作成する検証を実施した。
	Q	業務実施者
	A	全庁の当該業務を実施する職員
質の向上	Q	作業の精度は向上しましたか
	A	どちらともいえない
	Q	具体的にはどういった点において、どのように向上、低下しましたか
	A	できあがった案を広報課担当で修正等する必要はあるため、質についてのみで言えば広報課担当職員のレベルに達していない。ただし、報道資料作成に慣れない所属が利用する場合は精度向上につながる余地あり。
業務効率化	Q	作業の時間は短縮しましたか
	A	短縮した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように短縮・延長しましたか
	A	職員が修正すべき点が多いが、文章の校正やポイントを考える手間がなく瞬時にたたき台が作成され、そのまま使える内容も多いため、担当職員の時間短縮につながる。
	Q	1 件につき、どの程度短縮しましたか ※「短縮した」の選択者のみ
	A	5 分/1 件
	Q	その業務は年間何件発生しますか。 ※「短縮した」の選択者のみ
	A	1,822 件（R4 実績）
業務平準化	Q	業務平準化には寄与しましたか
	A	寄与した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように寄与しましたか？また、寄与しませんでしたか？
	A	一定のクオリティが担保されるため、誰が利用しても一定の内容が作成可能と思われる。
負担軽減	Q	作業の負担は軽減しましたか ※心理的な負担も含む
	A	軽減した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように軽減・増大しましたか？
	A	文案を瞬時に作成してもらえるため、作業効率が向上する。
課題と対策	Q	どのような状態になれば、（より）効果的な利用ができるようになりますか。当てはまるものにチェックをいれてください。
		機密性 2 以上を取扱う業務についても利用できるようにする
		特定の情報を学習させる
		虚偽の情報の出力頻度が下がる
	○	生成物の精度が上がる（特定情報の未学習や虚偽情報出力を起因とする精度は除く）
	○	利用者が文章生成 A I のツールの利用に慣れる

命令文：

命令書

- ・あなたは市役所の広報担当職員です。
- ・以下に記載する入力文をもとに報道機関へのプレスリリースを作成してください
- ・プレスリリースは以下の制約条件に従って計画案を作成ください。

#制約条件

■タイトルの作成

- ・タイトルは報道資料の最も重要な部分です。
- ・記者の興味を引くようなフレーズを盛り込みながら、内容がすぐに理解できる短い文で表現してください。
- ・必要に応じてサブタイトルを付けて、記者の興味を引くようなフレーズを記載するのも有効です。

(例：タイトルの例：報道機関へのプレスリリースについて ～リリースのコツをまとめました～)

■リード文の作成

- ・最も伝えたいこと（結論）をコンパクトにまとめてください。
- ・5W1H（「When=いつ」「Where=どこで」「Who=だれが」「What=なにを」「Why=なぜ」「How=どうやって」）を意識して正確な情報を簡潔明瞭に記載しつつ、アピールする部分があれば文章に盛り込むようにしてください。
- ・文は「ですます調」で断定し、あいさつなどは入れません。

■本文

- ・リリースする内容に沿って、小見出しを付けながらコンパクトにまとめる。（小見出しの例：1 目的、2 期日 など）
- ・できるだけ箇条書きで簡潔に
- ・関連するホームページがあるときは、URL も記載。

■問い合わせ先

- ・記者が連絡を取れるよう、担当部局と担当者（課長級以上）の電話番号を記入。
- ・閉庁日に開催するイベントは当日対応可能な公用携帯等の電話番号を。

#出力

熊本博物館プラネタリウム新番組《水の惑星―星の旅シリーズ―》

場 熊本博物館プラネタリウム 内 世界各地で撮影した星空タイムラプス映像と、心地よい水中映像が広がります。地球は生命あふれる海をもった特別な惑星。太陽系に存在する氷の天体（土星のリングや衛星エンセラダス、彗星など）を、迫力ある CG で体験しながら、水の惑星地球を見つめ直す旅が始まります。（撮影・CG・脚本：KAGAYA）

費 一般 200 円、大・高生 150 円、中学生以下 100 円 ※別途、博物館入場料が必要。

終了時期は、博物館ホームページでお知らせします。

出力文：

【タイトル】

熊本博物館プラネタリウム新番組《水の惑星―星の旅シリーズ―》 ～水の惑星地球を見つめ直す旅～

【リード文】

熊本博物館プラネタリウムでは、世界各地で撮影した星空タイムラプス映像と心地よい水中映像が広がる新番組《水の惑星―星の旅シリーズ―》を開催します。太陽系に存在する氷の天体を迫力ある CG で体験しながら、水の惑星地球を見つめ直す旅に出かけましょう。

【本文】

1 目的

熊本博物館プラネタリウムでは、新たなプラネタリウム番組《水の惑星―星の旅シリーズ―》の上映が始まります。この番組では、地球の特別な惑星としての姿を映像と CG で表現し、水の重要性について再認識していただきます。

2 期日

本番組は、熊本博物館プラネタリウムで開催されます。詳しい上映期間については、熊本博物館のホームページでご確認ください。

【問い合わせ先】

熊本博物館プラネタリウム担当部局：〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

担当者（課長級以上）：〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

なお、閉庁日に開催するイベントにつきましては、公用携帯等の電話番号を当日対応可能なものに変更いたしますので、熊本博物館プラネタリウムのホームページでご確認ください。

政策企画課 政策立案業務（市民参画手法の検討）

共通	Q	業務名
	A	政策立案業務（市民参画手法の検討）
	Q	業務及び活用内容
	A	政策立案業務の中で、例えば、市民参画の手法を検討する場合、①市民参画の手法のリストアップ②その手法は具体的にどういった手順で実施するかを検討③多くの人に興味をもってもらうためのアイデア出し④案内した場合の想定される反応の推測 など、多岐に渡り思考を巡らせる必要があるが、その思考のサポートに活用した。
	Q	業務実施者
	A	全庁の当該業務を実施する職員
質の向上	Q	作業の精度は向上しましたか
	A	どちらともいえない
	Q	具体的にはどういった点において、どのように向上、低下しましたか
	A	瞬時に大量のリストアップ、アイデア出しが可能であるものの、一般的な回答が多く成果物の質が使用しない時と比して向上したと客観的に評価できる段階にない（主観は個人差がある）
業務効率化	Q	作業の時間は短縮しましたか
	A	短縮した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように短縮・延長しましたか
	A	瞬時に大量のリストアップ、アイデア出しが可能であるため、作業の時間が短縮される。
	Q	1件につき、どの程度短縮しましたか ※「短縮した」の選択者のみ
	A	1時間程度
	Q	その業務は年間何件発生しますか。 ※「短縮した」の選択者のみ
	A	年間定例的に発生するものではないため、算定が難しい。
業務平準化	Q	業務平準化には寄与しましたか
	A	どちらともいえない
	Q	具体的にはどういった点において、どのように寄与しましたか？また、寄与しませんでしたか？
	A	業務に不慣れなものが使用する際、生成 AI が示す内容の真偽を見極められる場合は平準化に寄与しうる。
負担軽減	Q	作業の負担は軽減しましたか ※心理的な負担も含む
	A	軽減した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように軽減・増大しましたか？
	A	・市民がどういった反応を示すかの推測は答えがなく、頭を悩ませるが、一般的な想定を瞬時にリストアップしてくれるため、負担は軽減する。 ・多くのアイデアを必要とする分野、業務において、相談・ブレスト相手として活用でき、同僚が1人増えたような、心理的負担の軽減につながった。
課題と対策	Q	どのような状態になれば、（より）効果的な利用ができるようになりますか。当てはまるものにチェックをいれてください。
	☐	機密性 2 以上を取扱う業務についても利用できるようにする
	☐	特定の情報を学習させる
	☐	虚偽の情報の出力頻度が下がる
	☐	生成物の精度が上がる（特定情報の未学習や虚偽情報出力を起因とする精度は除く）
	☐	利用者が文章生成 AI のツールの利用に慣れる

命令文：

あなたは地方自治体の職員です。新たな総合計画を策定する担当です。
新たな総合計画を市民に理解してもらうための仕掛けを検討しています。
まずは、5 個案を出してみてもいいです。

出力文：

新たな総合計画を市民に理解してもらうための仕掛けとしては、以下のようなものが考えられます。

1. 市民参加の場を設ける：市民が総合計画に参加しやすい場を設けることで、計画に対する理解が深まります。例えば、市民向けのワークショップやフォーラムなどが挙げられます。
2. インフォグラフィックやポスターなどで可視化する：専門用語が多い総合計画を、インフォグラフィックやポスターなどで可視化することで、市民にわかりやすく伝えることができます。
3. SNS や Web サイトで情報発信する：SNS や Web サイトなどを活用して、総合計画に関する情報を発信することで、市民にアクセスしやすくなります。
4. 学校で教育する：学校で総合計画についての授業を行うことで、市民の子どもたちにも計画について理解を深めてもらえます。
5. 地元の有識者に協力を依頼する：地元の有識者などに協力を依頼し、市民向けに説明会や講演会を開催することで、市民に対する説明をより専門的に行うことができます。

データ戦略課① データ利活用_検証すべき課題・仮説の設定

共通	Q	業務名
	A	データ利活用_検証すべき課題・仮説の設定
	Q	業務及び活用内容
	A	データの利活用においては、大きく①検証すべき課題・仮説の設定、②データ分析手順の検討、収集すべきデータ項目のリストアップ、③分析に用いるデータの収集、④データの整理・加工・分析、⑤結果の解釈と報告資料の作成等の業務が発生する。 ここではその中でも、①検証すべき課題・仮説の設定について、データ分析を行う前提となる、事業実施による因果の流れを図示する、「ロジックモデル」の作成を行う際の思考の補助として活用を試みた。
	Q	業務実施者
	A	全庁の当該業務を実施する職員
質の向上	Q	作業の精度は向上しましたか
	A	向上した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように向上、低下しましたか
	A	Chat GPT にもリストアップしてもらうことで、リストアップ漏れの確率が現象するため、質の向上に寄与すると考える。
業務効率化	Q	作業の時間は短縮しましたか
	A	短縮した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように短縮・延長しましたか
	A	事業実施による因果の流れを図示するロジックモデルの作成において、Chat GPT を活用することでロジックモデルの構造毎に項目をマッピングできるため、体系を整理するのに役立ち、人が1から作成するより短時間で作成可能となるため、作業時間の短縮につながると考える。
	Q	1件につき、どの程度短縮しましたか ※「短縮した」の選択者のみ
	A	具体的な事業を離れた仮の事例による検証であるため算定不能。
	Q	その業務は年間何件発生しますか。 ※「短縮した」の選択者のみ
業務平準化	A	全庁的に実際にロジックモデルを作成すべき業務がどれだけあるか把握が困難であるため、算定不能。
	Q	業務平準化には寄与しましたか
	A	寄与した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように寄与しましたか？また、寄与しませんでしたか？
負担軽減	A	ロジックモデルは、アウトプットとアウトカムの区別など、作成に不慣れな場合には難易度が高いが、Chat GPT を活用することで的確に項目の峻別を行うことができるため、業務スキルを補完する点で業務平準化に寄与するものと考ええる。
	Q	作業の負担は軽減しましたか ※心理的な負担も含む
	A	軽減した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように軽減・増大しましたか？
課題と対策	A	ロジックモデルは、施策の論理的な立案に有用である一方で作成の難易度が高く手間もかかるが、Chat GPT を活用することで的確に項目の峻別や体系化を行うことができるため、作業を行う上での心理的負担の軽減に寄与するものと考ええる。
	Q	どのような状態になれば、(より)効果的な利用ができるようになりますか。 当てはまるものにチェックをいれてください。
	☐	機密性2以上を取扱う業務についても利用できるようにする
	☐	特定の情報を学習させる
	☐	虚偽の情報の出力頻度が下がる
	☐	生成物の精度が上がる（特定情報の未学習や虚偽情報出力を起因とする精度は除く）
	☐	利用者が文章生成AIのツールの利用に慣れる

命令文：

命令文

下記情報を踏まえ、ロジックモデルを作成してください。

初期仮説

目的：地域の一般廃棄物を減少すること

活動：行政による生ごみ処理機器の購入費補助等

条件

- ・ロジックモデルは、下記の【ロジックモデルの構造】をベースにしてください
- ・上記の【初期仮説】に書いた「活動」以外にもアウトカム達成のために有効と考えられる活動（アクティビティ）があれば、複数提示してください

ロジックモデルの構造

最終アウトカム（最終成果）

中間アウトカム（中間成果）

直接アウトカム（直接成果）

アウトプット（産出）：

アクティビティ（活動）：

インプット（投入）：

ロジックモデルとは

- ・政策の実施により、その目的が達成されるまでの論理的な因果関係を明示したもの。
- ・ロジックモデルは一般的に、インプット（投入）、アクティビティ（活動）、アウトプット（産出）、アウトカム（成果）を矢印でつなげたツリー図で表現される

出力文：

ロジックモデル

最終アウトカム（最終成果）：地域の一般廃棄物の減少

中間アウトカム（中間成果）：

1. 地域住民の生ごみの適切な分別率の向上

2. 生ごみ処理機器の普及率の増加

3. 地域住民の環境意識の向上

直接アウトカム（直接成果）：

1. 生ごみ処理機器の購入補助を受けた家庭の増加

2. 生ごみ処理機器の設置数の増加

3. 生ごみの適切な分別方法に関する情報提供の増加

アウトプット（産出）：

1. 生ごみ処理機器の購入補助制度の実施

2. 生ごみ処理機器の提供と設置支援

3. 生ごみの適切な分別方法に関する情報の配信

アクティビティ（活動）：

1. 行政による生ごみ処理機器の購入補助制度の立案と実施

2. 生ごみ処理機器の提供と設置支援の実施

3. 生ごみの適切な分別方法に関する情報の作成と配信

インプット（投入）：

1. 予算と人材

2. 生ごみ処理機器

3. 分別方法に関する情報の収集と作成

このロジックモデルでは、行政が生ごみ処理機器の購入補助制度を立案・実施し、生ごみ処理機器の提供と設置支援を行うことで、地域の一般廃棄物の減少を目指します。中間アウトカムとして、地域住民の生ごみの適切な分別率の向上、生ごみ処理機器の普及率の増加、地域住民の環境意識の向上を設定しました。これらの中間アウトカムの達成により、最終アウトカムである地域の一般廃棄物の減少が実現されます。

また、直接アウトカムとして、生ごみ処理機器の購入補助を受けた家庭の増加、生ごみ処理機器の設置数の増加、生ごみの適切な分別方法に関する情報提供の増加を設定しました。これらの直接アウトカムは、アクティビティとして行政が実施する生ごみ処理機器の購入補助制度の立案・実施、生ごみ処理機器の提供と設置支援、生ごみの適切な分別方法に関する情報の作成と配信によって達成されます。

最後に、インプットとして予算と人材、生ごみ処理機器、分別方法に関する情報の収集と作成が必要です。これらの投入があることで、アクティビティが実施され、直接アウトカム、中間アウトカム、最終アウトカムの達成につながると考えられます。

データ戦略課② データの利活用_分析に用いるデータの収集

共通	Q	業務名
	A	データの利活用_分析に用いるデータの収集
	Q	業務及び活用内容
	A	データの利活用においては、大きく①検証すべき課題・仮説の設定、②データ分析手順の検討、収集すべきデータ項目のリストアップ、③分析に用いるデータの収集、④データの整理・加工・分析、⑤結果の解釈と報告資料の作成等の業務が発生する。 ここではその中でも、③分析に用いるデータの収集・整理について、実際の統計データの取得を行う際の補助として活用を試みた。
	Q	業務実施者
	A	全庁の当該業務を実施する職員
質の向上	Q	作業の精度は向上しましたか
	A	どちらともいえない
	Q	具体的にはどういった点において、どのように向上、低下しましたか
	A	単純なデータ収集では誤った情報が含まれている可能性が高いことから、ファクトチェックが必須であり、精度の向上如何は結局活用する人に委ねられているため、どちらともいえない。 その一方で、GPT4.0 以上になるとブラウジング機能をはじめとして精度、信頼性の飛躍的な向上が期待できることから、質向上の余地はあると考える。
業務効率化	Q	作業の時間は短縮しましたか
	A	延長した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように短縮・延長しましたか
	A	リアルタイムデータについてはそもそも取得してくれないことに加え、データの取得先を指示して統計情報を収集した場合も、誤った情報を返してくるため、結局自分の手でデータソースにあたったり、ファクトチェックと情報修正のための作業が必要となるため、通常の情報収集よりも多くの時間を費やした。
	Q	1 件につき、どの程度短縮しましたか ※「短縮した」の選択者のみ
	A	
	Q	その業務は年間何件発生しますか。 ※「短縮した」の選択者のみ
	A	
業務平準化	Q	業務平準化には寄与しましたか
	A	寄与しなかった
	Q	具体的にはどういった点において、どのように寄与しましたか？また、寄与しませんでしたか？
	A	Chat GPT の利用に不慣れな人の場合、ファクトチェックを十分に実施することなく安易に信用してしまう可能性があるため、現状では業務平準化に寄与しないどころかむしろ利用は危険だと考える。
負担軽減	Q	作業の負担は軽減しましたか ※心理的な負担も含む
	A	増大した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように軽減・増大しましたか？
	A	誤った情報の可能性が高く、ファクトチェックに時間を要するため、負担は増大する。
課題と対策	Q	どのような状態になれば、(より)効果的な利用ができるようになりますか。 当てはまるものにチェックをいれてください。
	☐	機密性 2 以上を取扱う業務についても利用できるようにする
	☐	特定の情報を学習させる
	☐	虚偽の情報の出力頻度が下がる
	☐	生成物の精度が上がる（特定情報の未学習や虚偽情報出力を起因とする精度は除く）
	☐	利用者が文章生成 A I のツールの利用に慣れる

命令文：

あなたはプロのデータアナリストです。2019 年における東京都・大阪府から他地域への 15 歳未満人口の転出超過数（転出者数－転入者数）上位 3 地域を東京都と大阪府それぞれ表の形でまとめてください。
転出超過数のデータは、総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」から取得してください。

出力文：

東京都の 2019 年の 15 歳未満人口の転出超過数上位 3 地域は以下の通りです：

1. 神奈川県：転出超過数 2,500 人
2. 埼玉県：転出超過数 1,800 人
3. 千葉県：転出超過数 1,500 人

大阪府の 2019 年の 15 歳未満人口の転出超過数上位 3 地域は以下の通りです：

1. 兵庫県：転出超過数 1,200 人
2. 京都府：転出超過数 900 人
3. 奈良県：転出超過数 800 人

以上が東京都と大阪府の 2019 年の 15 歳未満人口の転出超過数上位 3 地域の情報です。

命令文：

転出超過数のデータが誤っているようなのですが、参照したデータソースを教えてくださいませんか？

出力文：

申し訳ありませんが、私は総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」からデータを取得することはできません。データの正確性については、総務省統計局の公式ウェブサイトや関連するデータベースを参照してください。

国際課① 多言語翻訳

共通	Q	業務名
	A	多言語翻訳
	Q	業務及び活用内容
	A	市民へのお知らせやチラシなどを翻訳する業務。 英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、フランス語、ドイツ語に対応している。
	Q	業務実施者
	A	全庁の当該業務を実施する職員
質の向上	Q	作業の精度は向上しましたか
	A	どちらともいえない
	Q	具体的にはどういった点において、どのように向上、低下しましたか
	A	Chat GPT が行う翻訳は、日本語の主語、述語の不明瞭な部分を AI の予測で補っているため、正確さに欠ける部分がある。Google 翻訳等の翻訳支援システムと同程度の機能であり、それらと比較して大きく精度が向上するとは言えない。 ※結局のところ人による最終確認は必要
業務効率化	Q	作業の時間は短縮しましたか
	A	どちらともいえない
	Q	具体的にはどういった点において、どのように短縮・延長しましたか
	A	Chat GPT による翻訳により、翻訳自体の作業時間は短縮したが、主語、述語の不正確さからかえって確認に時間がかかる場合があるため。
	Q	1 件につき、どの程度短縮しましたか ※「短縮した」の選択者のみ
	A	
	Q	その業務は年間何件発生しますか。 ※「短縮した」の選択者のみ
	A	
業務平準化	Q	業務平準化には寄与しましたか
	A	どちらともいえない
	Q	具体的にはどういった点において、どのように寄与しましたか？また、寄与しませんでしたか？
	A	行政文書等の多言語化は全庁的な業務であるため、手順を均一化できればだれでも対応が可能になると思慮される。
負担軽減	Q	作業の負担は軽減しましたか ※心理的な負担も含む
	A	どちらともいえない
	Q	具体的にはどういった点において、どのように軽減・増大しましたか？
	A	翻訳自体が専門的な言語能力、文書再構成能力（日本語の文章を翻訳しやすい文章に修正（主語や目的語を明確にする、専門用語を簡単な日本語に置き換えるなど）する能力）が必要となるため、機械的に作業できるのであれば、心理的負担が軽くなるものと思慮される。
課題と対策	Q	どのような状態になれば、（より）効果的な利用ができるようになりますか。 当てはまるものにチェックをいれてください。
		機密性 2 以上を取扱う業務についても利用できるようにする
		特定の情報を学習させる
	☐	虚偽の情報の出力頻度が下がる
	☐	生成物の精度が上がる（特定情報の未学習や虚偽情報出力を起因とする精度は除く）
		利用者が文章生成 AI のツールの利用に慣れる

国際課② 「やさしい日本語」 への変換

共通	Q	業務名
	A	「やさしい日本語」 への変換
	Q	業務及び活用内容
	A	市民へのお知らせなどを簡単な日本語がわかる在住外国人向けにやさしい日本語へ校正する業務。本作業を通じて、他言語への翻訳文のベースができあがる。 各課で所管する文書等を各課で対応できることが理想だが、一定程度のスキルの習得が必要なことから、各課にてクオリティを担保することが難しく、現在は国際課で支援している状況。
	Q	業務実施者
	A	全庁の当該業務を実施する職員
質の向上	Q	作業の精度は向上しましたか
	A	低下した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように向上、低下しましたか
	A	Chat GPT の機能では、「やさしい日本語」 への変換がうまくいかないため、国際課の翻訳支援の業務を行う職員と比較して作業の精度は圧倒的に低下した。定型的な変換（例：保護受給者→保護を受ける人）ではなく、外国人になじみがない言葉などの変換（例：土足厳禁→靴を脱いでください）が特にうまくいかない。 ※翻訳における手順として、①「やさしい日本語への変換」⇒②「多言語への第一次翻訳」⇒③「国際交流員によるネイティブチェック」が重要となるが、当該作業の際に Chat GPT を用いて固定の条件文により①・②までを行うことにより、全庁的に均一の条件で第一次翻訳までの作業が可能となる。一方で現行のバージョンでは条件文で設定した条件を完全に出力できていないため、条件文をさらに精査していくか、Chat GPT 自体の機能の向上が必要。
業務効率化	Q	作業の時間は短縮しましたか
	A	延長した
	Q	具体的にはどういった点において、どのように短縮・延長しましたか
	A	精度が低く活用することができないため、人の作業と Chat GPT に入力作業がどちらも発生し延長した。
	Q	1 件につき、どの程度短縮しましたか ※「短縮した」の選択者のみ
	A	
業務平準化	Q	その業務は年間何件発生しますか。 ※「短縮した」の選択者のみ
	A	
	Q	業務平準化には寄与しましたか
	A	寄与しなかった
負担軽減	Q	具体的にはどういった点において、どのように寄与しましたか？また、寄与しませんでしたか？
	A	精度が低く、Chat GPT による「やさしい日本語」 への校正程度であれば、誰でもできるため、業務平準化には寄与しない。
	Q	作業の負担は軽減しましたか ※心理的な負担も含む
課題と対策	A	どちらともいえない
	Q	具体的にはどういった点において、どのように軽減・増大しましたか？
	A	やさしい日本語への変換作業自体の負担は軽減したが、Chat GPT が活用できるレベルに達しておらず、翻訳後に再度チェックを行う必要があるため。
	Q	どのような状態になれば、(より) 効果的な利用ができるようになりますか。 当てはまるものにチェックをいれてください。
	○	機密性 2 以上を取扱う業務についても利用できるようにする
	○	特定の情報を学習させる
	○	虚偽の情報の出力頻度が下がる
	○	生成物の精度が上がる（特定情報の未学習や虚偽情報出力を起因とする精度は除く）
		利用者が文章生成 AI のツールの利用に慣れる

命令文：

#条件をもとに#入力文を翻訳してください。翻訳後、翻訳した後の文章を翻訳する前の言語に翻訳しなおしてみてください。

#条件

翻訳する前の言語：日本語

翻訳した後の言語：英語

翻訳の目的：{目的}

翻訳する文章の文脈：{文脈}

翻訳をした際に主語、動詞、目的語などが不明瞭な場合は、該当する翻訳後の言語の単語の後ろに「???」を付してください。

専門的な用語で一般人がわからない可能性がある箇所は、該当箇所の後ろに「△△△」を付してください。

翻訳した後の文章を翻訳する前の言語に翻訳しなおした文章のうち、翻訳する前の文章と異なる部分は、該当箇所の後ろに「!!!」を付してください。

#入力文

「やさしい日本語」とは、普段使われている言葉を、外国人にも分かるように配慮した簡単な日本語のことです。日常的な場面や身近な話題で使われる日本語を「ある程度」理解できる人が使うレベルです。

1995 年の阪神・淡路大震災で、日本にいた多くの外国人が、日本語を十分に理解できず、必要な情報を得られないがために適切な行動を取ることができず、被害を受けました。

そこで、災害発生時に、日本語が不慣れな外国人に、素早く的確に情報を伝えることを目的に考案されたのが「やさしい日本語」です。

考案当初は、災害時の情報伝達手段として使われていましたが、現在では、自治体や外国人支援団体で、生活情報や観光情報などを伝える手段としても使われるようになりました。

#出力形式

【専門的な用語で日本にきた初めての外国人の方が理解できない言葉の抽出】

【抽出した言葉の簡単な日本語の置き換え案】

【翻訳した文章】

【翻訳した後の文章を翻訳する前の言語に翻訳しなおした文章】

出力文：

"Easy Japanese" is simple Japanese that takes into consideration words that are commonly used, making them understandable for foreigners. It is a level that people who can "somewhat" understand Japanese used in daily situations and familiar topics.

During the 1995 Great Hanshin earthquake, many foreigners in Japan could not fully understand Japanese and were unable to take appropriate actions due to a lack of necessary information, resulting in damages.

Therefore, "Easy Japanese" was created with the purpose of quickly and accurately conveying information to non-Japanese speakers during times of disaster.

Initially, it was used as a means of disseminating information during disasters, but now it is also used as a means of conveying living and tourist information by local governments and foreign support organizations.

【翻訳した後の文章を翻訳する前の言語に翻訳しなおした文章】

「やさしい日本語」とは、外国人にも分かるように配慮した普段使われている言葉を用いた簡単な日本語です。日常的な場面や身近な話題で使われる日本語を「ある程度」理解できる人が使うレベルです。

1995 年の阪神・淡路大震災では、日本にいた多くの外国人が日本語を十分に理解できず、必要な情報を得られないがために適切な行動ができず、被害を受けました。

そのため、災害時に、日本語が不慣れな外国人に、素早く正確に情報を伝えることを目的に「やさしい日本語」が考案されました。

当初は、災害時の情報伝達手段として使われていましたが、現在では、自治体や外国人支援団体で、生活情報や観光情報などを伝える手段としても使われるようになっています。

財政課 財政の分析

共通	Q	業務名
	A	財政の分析
	Q	業務及び活用内容
	A	分析手法のリストアップ
	Q	業務実施者
	A	所属課の業務を担当する職員
質の向上	Q	作業の精度は向上しましたか
	A	どちらともいえない
	Q	具体的にはどういった点において、どのように向上、低下しましたか
	A	回答が得られなかったため評価できない。また、例年同じ分析手法にて分析をしているため、前年資料をリバイスの方が効率的。
業務効率化	Q	作業の時間は短縮しましたか
	A	どちらともいえない
	Q	具体的にはどういった点において、どのように短縮・延長しましたか
	A	回答が得られなかったため評価できない。また、例年同じ分析手法にて分析をしているため、前年資料をリバイスの方が効率的。
	Q	1件につき、どの程度短縮しましたか ※「短縮した」の選択者のみ
	A	
	Q	その業務は年間何件発生しますか。 ※「短縮した」の選択者のみ
	A	
業務平準化	Q	業務平準化には寄与しましたか
	A	どちらともいえない
	Q	具体的にはどういった点において、どのように寄与しましたか？また、寄与しませんでしたか？
	A	回答が得られなかったため評価できない。また、例年同じ分析手法にて分析をしているため、前年資料をリバイスの方が効率的。
負担軽減	Q	作業の負担は軽減しましたか ※心理的な負担も含む
	A	どちらともいえない
	Q	具体的にはどういった点において、どのように軽減・増大しましたか？
	A	回答が得られなかったため評価できない。また、例年同じ分析手法にて分析をしているため、前年資料をリバイスの方が効率的。
課題と対策	Q	どのような状態になれば、(より)効果的な利用ができるようになりますか。当てはまるものにチェックをいれてください。
	☐	機密性2以上を取扱う業務についても利用できるようにする
	☐	特定の情報を学習させる
	☐	虚偽の情報の出力頻度が下がる
	☐	生成物の精度が上がる(特定情報の未学習や虚偽情報出力を起因とする精度は除く)
	☐	利用者が文章生成A Iのツールの利用に慣れる

命令文：

あなたは新聞記者です。
公表されている資料を基に熊本市の財政状況について分析してください。
定量的な評価をしてください。
他の政令指定都市との比較もしてください。

出力文：

申し訳ありませんが、私は新聞記者ではありません。しかし、熊本市の財政状況について一般的な情報を提供できます。

熊本市の財政状況は、公表されている資料に基づいて詳細な分析をすることができます。具体的な数字やデータがあれば、それに基づいて評価を行うことが可能です。ただし、私のデータベースには熊本市の最新の財政情報はありませんので、具体的な評価を提供することはできません。

他の政令指定都市との比較についても同様です。各都市の財政状況を比較するには、それぞれの都市の財政情報が必要です。各都市の予算や債務、歳入と歳出のバランスなどを詳細に分析し、定量的な評価を行うことができます。

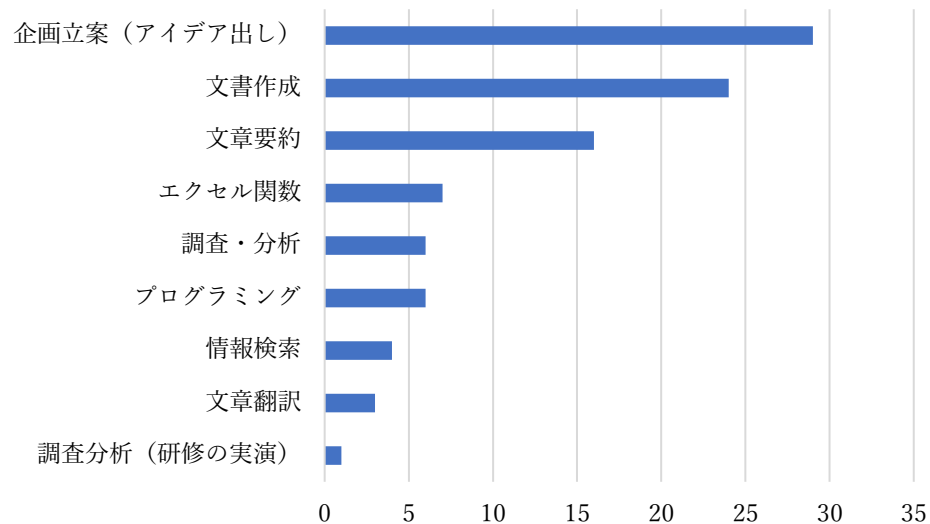
もし、具体的な資料や数字があれば、それを提供していただければ、より具体的な分析や比較を行うことができます。

② 利用者アンケート調査結果

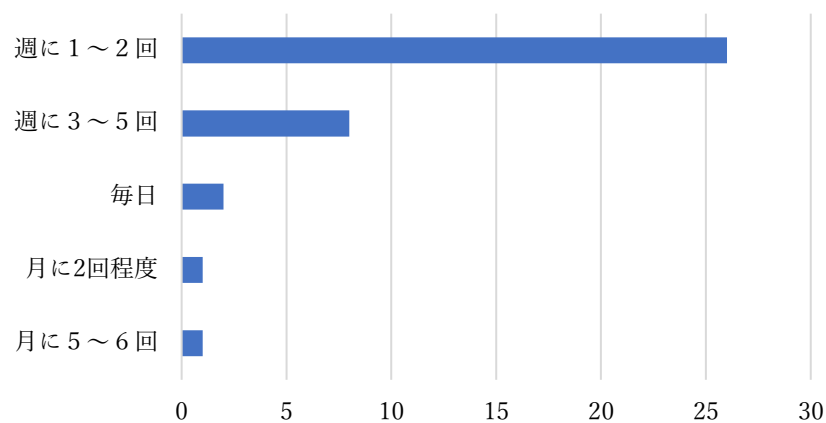
対象：「Chat GPT の実証実験」の利用者 100 名

実施日：令和 5 年（2023 年）6 月末、7 月末

Q 1. どのような用途で利活用していますか。 ※複数選択可



Q 2. どの程度利用していますか。

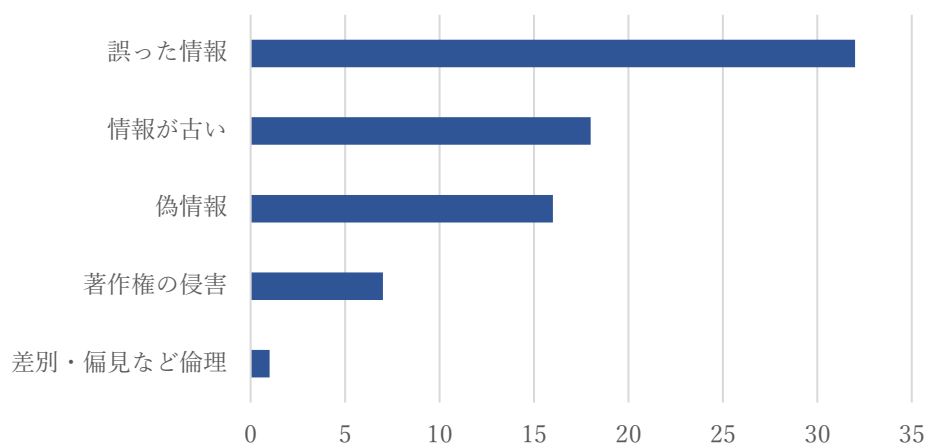


Q 3. 具体的な利活用事例を教えてください。（一部抜粋）

- SNS 情報発信のための文章作成
- 業務の進捗報告資料の要点整理

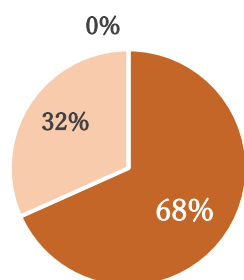
- 安全衛生委員会の読み原稿の作成
- 議事録の作成および要約、Q&A の案出しおよび回答作成
- 震災実働訓練の内容アイデア出し
- 政策調査レポートのテーマ案の頭出し
- シート内のエクセル関数の解釈
- アンケート自由意見の分析
- 小学生にまちづくりに関する講義を実施する上で企画案を作成
- 消防法の重大な違反建物に対して、法的措置以外でどのような対応をすべきかのアイデア出し
- ホームページに掲載のコラム記事についてフランス語から英語への翻訳
- 海外の論文翻訳、英語圏サイトの日本語訳

Q 4. 生成物に対するリスクや問題点は何ですか。 ※複数選択可



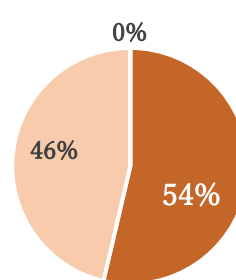
Q 5. 作業効率が向上しましたか

■ 向上した ■ どちらともいえない ■ 低下した



Q 6. 作業時間は短縮されましたか

■ 短縮した ■ どちらともいえない ■ 伸びた



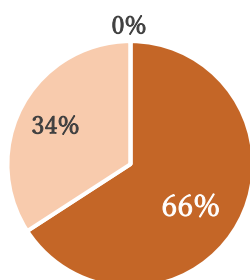
**Q 6－1. 作業時間が短縮された作業を具体的に教えてください。
また、どの程度の時間が短縮しましたか。(一部抜粋)**

※短縮した時間は、利用者の感覚も含みます。

作業時間が短縮された作業	短縮した時間
安全衛生委員会の読み原稿作成においては、テーマと文字数の指定を行い、何度か詳細な指示を繰り返すだけで非常に短時間で作成できた。また、挨拶文作成についても、部分を活用できるような文章のアイデアが出てくるので非常に効率化できた。	8 時間/月
資料作成において、これまで自分自身で書き出しから構成などを考えていたが、一度 Chat GPT の要約などを入れることで、整理の時間が短縮できた。	20 分/日
企画案のアイデア出しの作業が省略されるため、全体の業務時間が短縮された。英文の翻訳が驚くほど速くできた。	通常 1 時間 ⇒5～10 分
市政だより校正。市政だより記事スペース確保	8 時間/月
レポート案を選定する際にチャット GPT の出すアイデア・文章等を基に考えはじめることができるため、取り掛かりがスムーズに	通常 30 分 ⇒15 分
国際課に依頼することなく精度の高い翻訳が得られた。(固有名詞以外は大体合っている)	国際課へ翻訳依頼事務 30 分＋待機時間 1 週間が削減
計画に盛り込む各種取組の文章を作成する際に、Chat GPT にたたきを作ってもらい、その文章を手直しすることで、かなり時間が短縮できた。	30～60 分/日
施設への通知メールの作成が短縮できました。通常 30 分～40 分程度かかる作業が文書の校正を含め倍近く短縮できた。	通常 40 分 ⇒20 分
法規の読み解きや解釈を理解する作業が短縮された。	1 時間/日
イベント名の案だしで、0 から考える手間が省けた。	1 時間
自分で一からアイデアを出すのではなくベースとなるアイデアもしくは、ヒントとなるような事例を提示してもらえるので、一から考える時間を短縮できた。	通常 20 分 ⇒15 分
よくある翻訳化サービスとは異なり、前後の文脈を読み取って訳してくれる。不明瞭な部分があった時に突っ込んで聞くとさらに要約してくれる。	5 分/日
アイディア (素案) の作成、メリットデメリットの考察、その成果を表形式で出力	5 時間/月
研修企画をゼロベースで検討する際に、たたき台を作成してくれるので、相当時間数の働きをしてもらってます。	通常 3 時間程度 ⇒数分
挨拶文	通常 2 時間 ⇒1 時間
法令等の条文を理解するという作業に時間をとられていたものの、それが解消された。	30 分/日
Facebook 掲載記事の文章を考えると、書き出しや呼び掛け文などのアイデアを出力した。	通常 1 時間 ⇒30 分
検討すべき項目、検討のプロセス等について具体的な提案が示された。自身で考える場合、情報収集も含めて相当な時間を要することから、ベースの作成という点では、効果的であった。	通常 1 時間 ⇒5 分

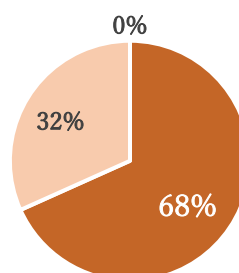
Q 7. 作業の質は向上しましたか。

■ 向上した ■ どちらともいえない ■ 低下した



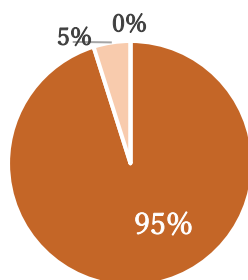
Q 8. 作業の負担が軽減されましたか

■ 軽減した ■ どちらともいえない ■ 増大した



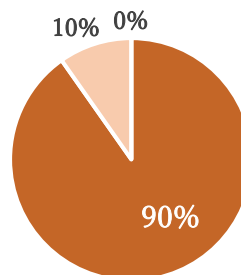
Q 9. 生成 AI は本市の業務に利活用
できると思いますか。

■ 利活用できる ■ どちらともいえない ■ 利活用できない



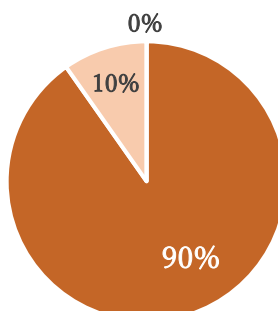
Q 10. 生成 AI を継続して使いたい
と思いますか。

■ 使いたい ■ どちらともいえない ■ 使う必要はない



Q 11. 幅広い業務に活用するため、生成 AI にデータ等を学習させるべきだと思
いますか

■ 学習させるべき ■ どちらとも言えない ■ 学習させなくていい



Q 1 2. 生成 AI を使ってみて感じた、率直な感想・意見・要望

率直な感想・意見・要望
現状は、誤った情報や、やり取りの不便さもあり使い辛い印象があるが、市政の業務を取扱いできるようなアップデートがあれば非常に有用と考えます。
非常に便利だが、今のところ活用方法の範囲が狭い
GPT4 が使用可能になれば、精度等があがり、さらなる効率化ができるのではないかと感じた。GPT4 が使用可能になることを要望する。
意識して生成 A I を使っていかなければ、これまでと同じ業務の進め方をしている。本格的な導入に際しては、まずは意識して使わせる仕組みや意識醸成が必要ではないかと思う。
取り掛かりでまずは使ってみる、ヒントやアイデアを得る分にはあると良いと思う。生成されたものをそのまま使うのはリスクがあるので、校正作業は必須。
当初は文書の作成、要約くらいに利用できるかと思っていたが、翻訳やエクセル関数の数式などネットではなかなか調べづらい部分への活用に大きく寄与することが分かった。今後の業務に大いに生かせそうです。
校正作業において、以前は元の文章にとらわれがちだったが、生成 A I はそもそもの文章構成や表現の提案をしてくれるため、短い時間で分かりやすく伝わりやすい文章を考えるのに役に立った。原課でも導入することで、市役所全体の作業短縮につながると感じた。
固有名詞の間違ひが多いため、確認が必要。江津湖花火大会をなぜか kawanami Fireworks と翻訳。時間経過とともに興味が薄れ利用頻度が減っているので、気軽に使えるようアプリ（毎度のログイン不要）だと開きやすい
AI だからといって何もかもを任せようと思わず、限界を見極めたうえであくまでもツールのひとつとして活用すれば、使い道は色々あるのではないか。
あまり内容を深く考えなくても良い部分（エクセル関数検索、文書等の素案・骨子部分のみの作成などある意味統一化・共通化されているようなもの）には有効に感じたが、対外的に公表する文書や調査・分析結果等については、真偽の確認、出典元の確認等の確認作業の手間が増えること、表面的な文章はそれらしいものとなっているが、説明するためのバックデータや裏付け等が弱いことなどのデメリットも感じた。また、スケジュール作成や文書の作成についても、前年度までの内容との連続性を意識して作成するようなものについては、前年度資料をリバイスの方が効率的な場合もあるように感じた。将来的に広がりがあると思われ、業務内容によっては有効に活用できるものがあると感じた一方、財政課の業務で考えたときには、根拠のない資料を提出されても容易に確認できないことや、説明が困難な資料が提出されるリスクはあると感じた。本格導入にあたっては、使用する側のマニュアル等の整備に加え、研修等によるモラル教育も必要と感じた。
一番の利点は「質より量」を重視する場面だと思いました。何かに悩んだ際、「案を〇〇個出してください」というプロンプトでとにかく数を重視してアイデアを出してもらい、何が良いかの判断は私（人間）がしてそれを掘り下げる使い方です。あの案出しの速度と量は人間に真似できるものではないため、積極的に活用すべきだと思いました。
分かっている情報、既知の知識をもとにたたき台をつくるには便利。自分の知らない分野については、間違いに気付けないので注意が必要。

どんな質問にも（正否は問わずだが）数分程度で答えが返ってくる。それをたたき台にして内容を精査していけばいい。
回答の質に差はあるが、直ぐに何らかのアウトプットが得られる点は非常に便利であると感じる。利用者はAIの能力を最大限に引き出すためのポイント・コツをつかむために、継続した学びが求められると感じている。
より使いこなせるように他の方の活用事例をもっと知りたいと感じた。
当局の業務は、秘匿性が高い業務が多いため、その分の使用が可能になれば業務効率が上がると思う。
誤った情報の確認が思ったより時間がかかる。
ファイルデータの読み込みができるとよい。現計画のスリム化や効率化の案を作成してほしい。
プログラミングなどの場面において使用できると感じた。
触ってみて、うまく活用できれば便利だろうなというところからなかなか踏み込めていないのが正直なところ。プロンプトの工夫とかを学ぶとだいぶ違うのかと思います。あと、本当に利用価値があるかは、4.0も試さないと分からない気がします。
文書作成については、行政文書にそのまま使えるレベルの文章は出力されないが、微修正で済むものが多い。大きく変更する必要のある文章が生成された場合でも「言い回し」や「表現」において参考になるものが生成されるため、文書作成に悩む時間が短縮された。VBAの記述については、ファクトチェックの工程を加味してもネットで検索しながら行うよりも圧倒的に時間が短縮できる。
同僚が1人増えたようなイメージ。
・アイデア出しや施策の検討といった創造的な業務に活用するためには、生成AIのグレードアップはもちろんのこと、使う側のスキル向上も大きく関係するため、実用化にはまだ研究・検討に時間を要すると感じた。 ・生成AIに各種計画、マニュアル、データなどを学習させ、職員の負担軽減や業務の精度向上等を目的として活用（窓口、許認可や給付業務等の要件審査など）するほうが効果が高いのではないかと考える。
挨拶文のたたき台としては、非常に有効だった。 また、事業の政策立案のヒントとしての活用としても、有効であったため、今後も利用したい。
出力された情報を過信しすぎず、自分の知識やスキルで修正していく必要がある。その前提であれば、いいアドバイザーやサポーターとして業務を支援してくれる。
プロンプトのノウハウを身に着けるまで一定の時間がかかる。 翻訳等の狭い範囲の情報に対するアウトプットの質はそれなりに高いと思われるが、行政が扱うようなマニアックな分野については、AI側にとっての学習源が乏しく、質の向上には時間がかかるように思える。